長井小学校　地域説明会　記録

日　　時	令和５年 11 月 12 日（日）14:00～15:00	場　所	長井小学校体育館

（内容）

発言者	発言内容
市職員	１　開会 ２　挨拶（教育次長） ３　長井小・秦小の統合について 本日配布させていただきましたＡ４横書きの「学校の統廃合について」の資料に基づいて「秦小学校と長井小学校の統合（長井小学校と秦小学校の統合）」について説明させていただきます。この資料は、以前の説明会などでも使用している部分がありますが、今回初めて見る方もいらっしゃると思いますので、改めて御説明いたします。 それでは、資料の１ページをお願いします。 全国的な少子化の進行により、児童・生徒数が減少していますが、熊谷市でも、ほぼ全ての学校で児童・生徒数が減少し、学校の小規模化が進んでいる状況です。この傾向は、今後も続くことが見込まれています。 小規模の学校では、 ・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・児童・生徒に目が届きやすい。 などのメリットがある一方で、 ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなる。 ・人間関係や相互の評価が固定されやすい。 などの課題も懸念されています。 こうした状況について、国からも市町村ごとに、「少子化に対応した、活力ある学校づくり」について、継続的に検討・実施していくことが求められました。 そこで、熊谷市では、子どもたちによりよい教育環境を用意することで、バランスの良い確かな学力を身に付けてもらうことを目指して、「学校規模の適正化」に取り組むこととし、平成３０年１１月に策定した「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」の中で、規模の適正化を図るため「学校の統廃合」を進めていく方針を示しています。 右の表を御覧ください。 基本方針では、「学校規模の基準」として、小学校ではクラス替えが可能な１

	学年２学級以上が望ましいこととして、 ・「学校統廃合等の基準」を「複式学級」が見込まれる場合は直ちに検討する。 ・「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、児童数の動向に注視しつつ検討する。 としています。 長井小学校・秦小学校では、統合予定の令和９年４月時点において「ほぼ全ての学年で単学級」となることが見込まれていますので、統合に向けた検討を進めようとするものです。 ２ページをお願いします。 左の表に統廃合の案を記載していますが、一番上の成田小と星宮小については、「熊谷市立成田星宮小学校」として今年の４月から新たに開校し、これまで順調に運営されていると聞いています。 男沼小・太田小・妻沼南小、３校の統合については、「熊谷市立妻沼西小学校」と校名が決定し、２０２５年、令和７年４月の開校に向けて準備を進めています。 このほか、小学校では長井小と秦小の統合計画案を含めて７地域、中学校では６地域の統合計画案を検討しています。 統廃合の内容ですが、右側のとおり、統合に当たっては、規模や経過年数にかかわらず、対等な関係での統合とし、新たな学校として設置することとしています。 設置場所は、既存の学校施設を活用し、校地面積や校舎の状況などを勘案して決定します。通学方法は、元の学区に小学校がなくなる地域については、原則スクールバスの利用を想定し、中学校については、自転車通学を想定しています。 また、統合は新たな学校として設置することになるため、学校名なども新しいものになります。学校名も含め、校歌や校章など、具体的なことについては、新校設立準備委員会を立ち上げ、学校や保護者、地域の皆さんとともに協議・検討を重ねて決めていく予定です。 ただし、ここに記載されている統合計画はあくまでも「案」ですので、実際に統廃合するかどうかについては、今後の児童・生徒数の推移に注視しつつ、個別に判断をしていくことになると考えています。 ３ページをお願いします。 長井小学校と秦小学校の統合方針の案ですが、２０２７年度、令和９年度に２校を対等な関係で統合し、設置場所は、児童数が多く、敷地や校舎の面積が広い、長井小学校の場所を想定しています。 続いて、右側に記載してある適正化のメリットですが、 ・児童生徒を多様な考え方に触れさせることにより、集団の中でルールを学

	び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸ばすことができる。 ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができるとともに、人間関係の固定化を回避できる。 ・児童・生徒同士の人間関係や教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。 など、学習生活面のメリットのほか、 ・経験、教科、特性などの面でバランスの取れた教員の配置を行うことができる。 ・ＰＴＡ活動等における保護者一人一人の負担が軽減できる。 など、学校運営の面でもメリットもあります。 今後、統合に向けた検討を進めていく段階において、様々な課題が生じることも想定されますが、そうした課題が解消された上での統合となるよう、丁寧に進めてまいります。 ４ページをお願いします。 上のグラフは、熊谷市立小中学校の児童・生徒数の推移と将来推計となっています。冒頭に説明いたしましたが、長井小と秦小についても、児童数は減少していく見込みです。 ５ページをお願いします。 上のグラフは令和５年５月１日現在の、住民基本台帳人口を基にした令和５年度から１１年度までの児童数の見込みです。 それぞれ、左から長井小学校、秦小学校の順に並んでいますが、左側の長井小学校を見ますと、令和５年度以降、年々減少する見込みであり、また、秦小学校でも、減少率は緩やかですが減少していく見込みとなっています。 また、下の表は、現在の児童数と統合予定の令和９年度の児童数の見込みです。 現在、長井小では１年生と５年生が単学級となっていますが、令和９年度は６年生のみ２学級で、５年生以下の学年は全て単学級となる見込みです。また、秦小学校では現在も既に全学年で単学級ですが、令和９年度には更に児童数が減少した上で、全学年、単学級のままの見込みです。 ４ページの市全体の人口減少率に基づき推計した児童数と比較して、５ページの住民基本台帳人口を基にした児童数見込みは、２０２５年度で比較しますと、更に２割程度減少する見込みとなっています。 ６ページをお願いします。 こちらでは、現在までに統廃合を進めてまいりました各学校の紹介をしています。統合時期、学校の位置、校名などは、記載のとおりです。 通学方法については、従来の学区内に小学校がなくなる地域の児童を対象と

	してスクールバス通学とする予定です。既に統合された成田星宮小では、旧星宮小地域の児童がスクールバスによる登校を開始しています。 　また、現在統合準備を進めている男沼小・太田小・妻沼南小の例では、男沼小と太田小の児童がスクールバス通学となる予定です。成田星宮小では４か所の乗降場所を設定し、２台のバスにより通学をしています。男沼小・太田小・妻沼南小のスクールバスの運行内容は、現在検討を進めているところです。 　表はそれぞれの統合時における児童数、児童数見込みとなっています。 　一番下に記載されているように、統合の１年前には、校名や通学方法、学用品など、様々なことを決めていく必要があります。 　次の７・８ページは、これまでの統合計画に際し、比較的多く寄せられた御質問に対する回答例を記載しておりますので、御確認ください。 　なお、本日の説明会に先立って４点の御質問が寄せられています。 　あらかじめ各担当課に回答を作成いただきましたので、御質問の内容とその回答について読み上げます。 　１点目は、放課後子供教室の活動方法は、統合前の地区ごとの活動となるのか、それとも統合した区域全体での活動となるのか、という御質問です。 　担当課からは、基本的に１つの小学校区では１団体の活動が対象となりますが、統合前の地区ごとで引き続き活動を継続することも可能であり、その場合でも、それぞれの地区にこれまでどおりの活動費が継続して交付されますとの回答がありました。なお、統合前の地区ごとで活動を継続するのか、統合後の地区全体で活動をしていくのかについては、各地区での御検討をお願いしますとのことです。 　２点目は、統合した後も、秦小学校の校庭や体育館を使用することができるのか、という御質問です。 　担当課からは、校庭や体育館などの統合後の活用方法は、今後、地域の代表者からなる「跡地等利活用検討委員会」を設置し、地域の方々の声を伺いながら、具体的な内容を検討することになりますが、既に定まっている各種行政計画との整合性にも十分留意しながら検討を進めていく予定ですとの回答がありました。 　参考までに、旧星宮小学校では、跡地利活用の方法が正式に決定するまでの間は、閉校前まで利用していた団体などに、引き続き校庭や体育館を利用していただいています。 　３点目は、校区連絡会は、統合後どうなるのか、という御質問です。 　担当課からは、成田星宮小学校では、統合前の小学校区単位でそれぞれが活動を継続していますので、長井小学校区連絡会と秦小学校区連絡協議会の統合

	後の在り方については、統合前にそれぞれの御意向を確認させていただきたい、との回答がありました。その上で、校区連絡会を統合するかしないかについては、それぞれの校区連絡会において御検討をお願いしますとのことです。 ４点目は、学校名、校歌はどうなるのか、という御質問です。 これについては、先ほども御説明しましたが、統合に当たって決めていく必要があるものについては、統合に向けた準備を進める中で、保護者や地域の方々、学校の先生方と協議・検討を行い決めていくことになると考えています。 資料の説明と事前に頂いた御質問への回答は以上となります。 なお、統合に向けた準備には相応の期間が必要となります。皆様からの御意見・御質問などを踏まえた上で、今年度中には、統合に関する市としての結論を出し、新校設立に向けた準備を進めていければと考えています。 統合に向けた準備を進めることとなった場合は、新校設立に向けた準備委員会を立ち上げ、検討する内容ごとの部会も設置して、十分な時間をかけて新校設立に向けた準備を進めさせていただくことになります。 具体的に協議・検討していく内容などについてですが、準備委員会では、統合に向けて調整が必要な事項全般を協議し、その結果を市に報告していただく予定です。 検討部会としては、学校運営部会、通学部会、ＰＴＡ部会などの設置を考えています。学校運営部会では、校名、校歌、校章、体育着などの学用品について、通学部会ではスクールバスなど通学方法について、ＰＴＡ部会ではＰＴＡ組織やその運営などについて協議していただく予定です。 準備委員会や検討部会の委員には、先生のほか、ＰＴＡなどの保護者や地域の皆様に委員として御協力していただきたいと考えています。 私からの説明は以上となります。御清聴ありがとうございました。 ４　質疑・応答
市民	今後、統合後に再度統合する可能性があると思うが、もっと大規模校に統合する計画はないのか？
市職員	統合の規模に関する方針ですが、先ほど説明した学校規模に関する基本方針を基に考えており、現状としてはお示ししている統合案を基に検討しています。統合した後に更に統合するということは現状では考えておりません。
市職員	補足として、午前中の説明会の際に頂いた質問について説明いたします。 体育着などの学用品は現在使っているものを引き続き使用できるかどうかという質問がありましたが、成田星宮小学校の例ですと、統合前に使っていたものを引き続き使用していただいています。新しく入学する児童や買い替えが

	必要となった場合には、標準の体育着を用意させていただきますので、それを購入していただいています。長井小と秦小が統合になった場合も同様に検討していきたいと考えています。
市民	５ページに児童数の見込みがあるが、秦小については低い数字だが大きな変動がなく６年間推移をしている。秦はなぜ児童数がこのまま減少するかの分析はしたのか？
市職員	現在、秦地区の０歳と１歳のお子さんは９人や１０人となっています。その先というのはまだどうなっていくのかという推測は難しいのが現状です。
市民	子供の数が低空飛行しているというのは、若い世代がそれなりにいるということが考えられる。長井地区は、昔住宅ができて一気に増えたが、後を継がずに減っていった。今は生産年齢人口も減り、児童数も減っている。秦小学校がなくなると若い世代もいなくなってしまうのではないか？子供がいない集落は絶滅するしかない。前の統廃合説明会でも行政的に若い世代を増やす方法を取って児童数を増やすべきと発言したことがある。 このままいくと秦村、長井村、太田村などは、空き家と荒廃した土地しかない場所となってしまう。学校をなくせばいいというのではなく、総合的な面で統廃合を考えていく必要があるのではないかと思う。
市民	学校給食の関係について、以前の学校給食の説明会で全ての自校式からセンター方式に変更すると説明があった。自校式は評判がいい。妻沼地域は長い間自校式を行っており、センター方式になることに不安がある。食中毒についてもセンターで行うと熊谷市全体の小学校が危険性を帯びてしまう。自校式であれば、１つの学校で食中毒を抑えられるのではないか？ 統合したとしても児童数が爆発的に増えるわけではないので、自校式は今の施設でできると思うので残したほうがいいのではないか？
市職員	現在センター方式と自校式が混在していることで様々な課題が出ています。例えば、給食費とか給食内容が違うというのがあり、これは合併以来の問題でした。例えば、妻沼地区では週２回ご飯を持参してきてもらっています。他の地区では、週３回ご飯を給食会という所から購入して提供しています。この関係で妻沼地区は給食費が安くなっています。逆に大里地区も自校式ですが、食数が少ないので食材を購入するお金が他の地区より高くなり、給食費は市内で１番高くなっています。学校給食法で食材は保護者負担となっており、センター式でも自校式でも負担の差が生じてしまっています。 合併以来、こういう課題がありながら、どちらかの方式に統一していく検討を行っており、一度自校式という判断が出ましたが、調理場の面積を確保できない学校がいくつか出たため、自校式で統一は難しいということで、平成 30 年

	にセンター方式に統一するという方針に変わった経緯があります。 熊谷と江南の給食センターは 40 年以上稼働しています。自校式でも、妻沼小学校の給食室は 50 年以上稼働し、他の自校式の給食室も 30 年～40 年稼働している状況です。給食室は子どもの休み期間しか工事ができないため、大きい修繕ができていない状況です。それに加え、熱や湿気を帯びる施設なので傷みが出ています。そして、学校給食の衛生基準は年々厳しくなってきています。例えば、最近は施設について厳しくなっています。給食室は、室温 25 度以下、湿度 80%以下に保つようにとされています。それから各調理室や食器を洗う部屋を仕切るというように厳しくなっています。こうなるとセンターも自校式も建て替える必要が出てきたという課題もあります。 このような状況から、センター方式に統一した方が老朽化や衛生の問題を早期に解決して子供たちに安心・安全な給食を提供できると考えました。 食中毒に関してですが、栄養士、調理員の協力により、これまでのところ食中毒は発生していません。今度作る施設では、最新の衛生管理の行き届いたものになり、絶対発生しないとは言えませんが、引き続き対策をしていくようにします。また、1 日 1 種類ではなく 3 種類の献立を作り、危険分散したいと考えております。
市民	太田小と男沼小の説明会でも意見があったが、各校の調理員の働き口がなくなってしまう。そのような方の処遇はどうなるのか？
市職員	センターの調理員や、給食が届いたら配膳室に並べるという給食補助員という仕事があり、今後、調理員と話していきながら、このような仕事に就けないかどうか検討していきます。
市民	補助員に全員なれるわけではないと思うので、全体の処遇も考えていただきたい。
市民	学童の関係だが、妻沼南小から妻沼西小に変わるときに学童も妻沼西小となると市議会で審議されていた。秦小の学童はどこに設置されるのか？また、学童の迎えはどうなるのか？秦小では近かったが、長井小に学童が来た場合は遠くなるので、祖母などが迎えに来るわけにはいかないだろうなと思う。そういった対策は取られるのか。
市職員	統合した場合、学童については統合後の学校に設置する方が望ましいとされていますので、長井小学校に設置することになると考えています。また、学童を利用した児童はスクールバスの利用ができなくなる想定ですので、お迎えは保護者にお願いすることとなります。
市民	長井小学校の保護者からスクールバスが利用できないかという質問が出て

	いるが、市の考えとしてあくまで秦小学校の児童のみが利用するということについて、検討の余地はないのか？
市職員	これまでの統合についても廃校となる学校の児童のみがスクールバスを利用できるとしています。距離に応じてという考えもありますが、学校がなくなり教育環境が変わる児童を対象にするという方針となっております。現状では秦地区の児童のみがスクールバスを利用することになると考えております。
市民	長井小学校の児童についても、新しい児童が入ってくるので教育環境が変わると考えられる。秦地区の乗降場所に行くほうが長井小学校へ行くよりも近い児童については、スクールバス利用の検討もできないか？
市職員	長井小学校と秦小学校はこれから検討していくので、御意見の一つとして参考にさせていただきます。
市民	アンケートの対象者は？
市職員	４月に長井小と秦小のＰＴＡ総会で配布させていただいたものです。在校の保護者に配布しました。
市民	配布数と回答数は？
市職員	資料がなく回答できませんが、学校を通して全保護者にアンケート結果を配布しています。
	５　閉会 本日、説明させていただきましたとおり、子供達の教育環境を第一に考えての統合でありますことを皆様に御理解いただきまして、これから統合に向けた準備を始めていきたいと考えています。 その第一歩としてＰＴＡ役員さんや地域代表の皆様に、統合準備のための検討会への参加をお願いさせていただきますので、御理解・御協力をお願いいたします。 また、本日頂いた御意見等につきましては、今後も検討してまいりますが、検討した結果を含めまして統合に係る情報につきましては、随時、皆様にお知らせしていきます。自治会長様、班長様には、引き続きお知らせの回覧等などに御協力をお願いいたします。 以上で学校統合に関する地域説明会を終了します。 本日は長時間にわたり御参加いただき、ありがとうございました。